

◆企画広報室より

企画広報室 小林 昌人

皆さん、こんにちは！暑い日が続いていますね。まもなく夏休みになります。就職活動で忙しい方も多いと思いますが、休みを利用して普段できないような勉強や遊び等、充実した時間をお過ごしください。

さて、本学では、6月1日(月)よりAO入学選考のエントリー受付が始まっています。中にはオープンキャンパスに何度も足を運んでくれる高校生もいて、将来の仕事に関わる体験授業を真剣に取り組んだり、進路についての相談を熱心に行ってきたりしてくれています。そのような高校生の姿を見て、こちらも身の引き締まる思いです。

サマーオープンキャンパスでは多くの学生の皆さんにアシスタントをお願いしています。自分たちが高校生の時にどんなことを考えていたのか思い出しながら、見学に来る未来の後輩たちへあたたかいアドバイスや激励の声をかけてあげてください！高校生にとって「先輩と触れあえる」というのは、とても嬉しいことです。人の印象は第一印象で決まると言われています。皆さんの明るい笑顔と挨拶で学校への好感度も倍増すること間違いなし！元気よくお願い致します！

今年の夏のオープンキャンパスでは、スペシャルイベントを開催しています！電子情報では、モバゲーで有名なDeNAからゲームディレクターを招いての特別講演や、ドローン(マルチコプター)を扱う企業の方の講演&実演、福祉医療では、各分野の卒業生を招いてのイベントなど盛り沢山です！在校生の皆さんも楽しめる内容ですので、興味のある方は、友達や家族を誘ってぜひ参加してください！

最後に、皆さんの家族や後輩で『電子情報』『福祉医療』に興味がある方がいらっしゃれば、ぜひオープンキャンパスへの参加を勧めてあげてください。体験授業を通して職業を身近に感じ、将来の進路選択に役立てていただければと思います。よりよいオープンキャンパス開催に向けて、皆さんからもご意見等がありましたら、どんどん企画広報室までお寄せください。皆さんの力で中村学園をますます盛り上げていきましょう！

◆この夏に、決める。

そして、就活の効用を意識しよう

進路室長 橋野 幸男

「就活の歴史の中で 最大とも言える波乱の1年」。7月16日付『日本経済新聞』(電子版)の記事「就活長期化。スタミナ切れ・ドロップアウトも」の一節です。「2016ルール」の適用に、想定を上回る「売手市場」が重なって、五里霧中の採用・就職戦線となった今年度。いよいよ、経団連加盟の大手企業が実質的に面接をスタートさせる「8月1日」が到来しました。

以下に引用するのは、静岡新聞社『新卒のかんづめ・保護者向け就活情報メールマガジン』の7月22日配信「8月末まで企業は“採用モードに”」です。現況を的確にまとめていると思いますので、紹介します。

一「学生が内定獲得をめざすように、企業の採用担当者は入社予定者の確保をめざします。

今年は2016ルールの適用などの影響を受けて、企業側の採用活動が予定通り進んでいません【※】。そのためか、企業は7月に入って一気に『選考モード』『選びたい』から『採用モード』『採りたい』に傾いたように映ります。

おそらくこの傾向は、全国大手企業の内定通知が出そろい、学生が新たなターゲットとして中小企業に目を向け始める8月末まで続きます。この間に数多くの企業と接触すれば、内定を獲得する確率が高まります。就活するなら、今がチャンスです」

文中の※部分について、7月24日付『静岡新聞』では、「内々定を出した学生から内定承諾書の提出や入社意思の返答を得られていないケースが目立ち、例年以上に計画数充足への危機意識が強い」として、県内の卸・小売業や建設業の例が紹介されています。そして、「静岡新卒者就職応援本部主催で9月上旬に県内3会場で開く就職面接会は、参加希望企業の出足が早く、すでに9月以降の採用活動を見越した動きも始まっている。10月1日の内定解禁を約2か月後に控え、採用戦線は今後もなお大きく動きそうだ」と結んでいます。

残念ながら、苦戦も見られる電子情報。しかし、皆さんはまだまだ「スタミナ切れ」を起こす段階ではありません。自身の「成長ベクトル」を信じて、果敢にチャレンジしてください。加えて、「firm flexibility」(芯のある柔軟性)を発揮し、学んだことを活かせる他業種・職種を探索することも心掛けてください。

福祉医療の学生は、自分の分野が「人手不足」だからと楽観してはいけません。地元の施設を志望する皆さんには、同じようにその施設に応募する「ライバル」が存在します。「マクロ」(分野全体の求人倍率)と「局地戦」(個々の施設をめぐる就職競争)とは、異なるのです。入念な準備で、あなたの魅力を存分にアピールしてください。

次に、就職活動の効用に関し、「内定を得る」だけにとどまらないという点について、述べます。

先日、株式会社リクルートキャリア「就職みらい研究所」から、『充実した就職活動が入社後の適応や定着におよぼす影響～就業レディネスの重要性～』というレポートが発表されました(7月21日。主任研究員・舩田博之)。「就職活動を納得して終えて、社会人としての心の準備が整ったこと(=「就業レディネス」)は、入社後の働きぶりや適応・定着に長期的にポジティブな影響を与えており、その人の職業人生にとって大切なポイントになる」ことを示唆する調査研究結果です。

「充実した就職活動」の要素として、「社会人としての自覚」と「自己理解の促進」を挙げ、この二つをまとめて「就業レディネス」と名付けています。ここで、

・「社会人としての自覚」：社会人としての覚悟とやっていける見通しや自信であり、就職活動を通じて獲得した自信と自己効力感といえ、(就活で)成長した証である

・「自己理解の促進」：就活開始時の自己分析による自己理解のレベルとは異なり、就活でのさまざまな経験を経て自分らしさや持ち味、価値観を実感した結果である

更に、その「就業レディネス」がどのような経験や学習を通じて形成されるのかという考察もありますが、それを含め詳細は別の機会に譲ります。

真摯に取り組む就職活動は、皆さんのキャリア形成における重要な節目であることを理解して、今後の活動に取り組んでほしいと願っています。



8・9月オープンキャンパス開催日程

●8月4日(火) 17:00~18:30 学校説明・体験入学・何でも相談会

●8月19日(水) 13:00~15:30

モバゲーDeNAとドローンのプロが語るスペシャルイベント第2段!!

●8月29日(土) 13:00~15:30

夏休みスペシャルイベント総集編!!

●9月2日(水) 17:00~18:30 学校説明・体験入学・何でも相談会

●9月12日(土) 13:00~15:30 学校説明・体験入学・何でも相談会

●9月25日(金) 17:00~18:30 学校説明・体験入学・何でも相談会

◆卒業生を囲む会に参加して

子ども心理学科 2年 渡邊 青香

卒業生を囲む会で先輩方の話を聞き、今までより深く将来を考える機会となりました。やはり先輩方もたくさん悩んで就職先を決めたのだと知り、自分もたくさん悩んで就職先を決めたいと思いました。保育園や幼稚園、施設や託児所の実習を通し、自分に合った就職先を見つけていきたいです。

また、提出物を期限までに出すことや、時間を守るなどの当たり前のことがどんなに大切かを改めて感じました。今なんとなく過ごしている日々も一日一日が大切なので、無駄にせず過ごしたいです。自主実習で就職先を決めたという話を聞き、自分に合ったところを見つけることはとても大切だと思いました。

たくさんの困難があると思いますが、子どもの命を預かるという責任を負いながらも、子どもの成長を見守ることのできる保育士になりたいと思います。

◆面接指導を終えて

医療情報秘書科 2年 巻嶋 華衣

私は今回の面接指導を通して、『笑顔』がとても大切ということを知りました。

来院される患者様の中には、身体が辛い方、不安を抱えている方も沢山いらっしゃいます。一番初めに接する医療事務員に笑顔がなく、暗い態度をしていると不安感が増してしまい、病院の印象も悪くなり、患者様からの信頼もなくなります。そうならないためにも笑顔は必要不可欠なものなので、入退室時や面接中の受け答え時には笑顔を決めたいという心がけました。練習を重ね、本番でも余裕をもって、笑顔でいられるように頑張りたいと思います。

他にも、話すスピードや声のトーンなどについてもご指導いただきました。私は緊張により早口になってしまい、明るさを出そうと思ひたすら大きい声で受け答えを行ってしまいました。早口では聞きとりやすく、また、大きい声では患者様と接した際に頭に響き、もっと気分が悪くなってしまいう方もいらっしゃるの、面接時も気を付けた方がいいとご指摘を頂きました。周りをよく見て、患者さまに合った対応ができるよう、今回の反省をこれからの面接試験に向け、日々の生活の中で心がけたいと思いました。

子ども心理学科 3年 朝日 光香

面接指導を終えて感じたことはたくさんありました。昨年、一昨年までは他人事のように見ていた面接指導を、いざ自分がやるとなると見慣れている先生方の前でもとても緊張してしまい、上手く話すことができませんでした。「履歴書に書いてあることをそのまま話すのではなく、自分の言葉で話す」と校長先生がおっしゃり、ど

れだけ自分のことを相手に上手く伝えられるかが大切なのかを改めて考えることができました。

そして、一番大切だと感じたことは「笑顔を忘れない」ということです。私たちは子どもと関わる仕事に就くので、笑顔を忘れてはいけません。つい緊張して表情が堅くなることもあるかもしれませんが、面接官はそこもしっかりと見ています。常に笑顔で話すことを意識すると良い印象を持ってもらえると思いました。今回の面接指導で自分が改善しなければいけない所、考えなければいけない所をもう一度よく見つめ直し、就職活動に取り組んでいこうと思います。

◆第三期実習を終えて

総合福祉学科 2年 望月 映見

第3期実習は一ヶ月という長い期間の中、技術だけではなく介護計画の立案、夜勤といった、今までにない初めての経験ばかりで戸惑ったり、悩んだりしたことがたくさんありました。特に介護計画では、対象者様の情報収集から始まり、ニーズとは何か、何を一番望んでいるのか考えることがとても大変でした。

しかし、対象者様や職員様とのコミュニケーションを通して気づくことができました。計画のひとつとして回想法を取り入れ「小麦饅頭づくり」を行いました。作っている時の対象者様はいつもと違う口調で熱心に作り方を教えてくださいました。仕事をしている頃みんなに作り方を指導していたことを思い出したのではないかと思います。その表情はとても真剣で生き生きとしていました。何かのきっかけで昔の記憶が蘇ることがあります。人それぞれの人生に目を向け、その人に合ったプランを考える大切さを学ぶことができました。

第4期実習では、さらに広い視野を持って実施後の評価を行っていききたいと思います。

介護福祉学科 2年 飯塚 萌

25日間という長期に亘った第3期実習は、私たちにとってとても大きな学びを得ることができました。担当の利用者様を決め情報収集をし、どのような支援が良いのか考え実施をする介護過程の展開を行いました。

また、初めての夜勤実習をさせていただき、昼間には見られない利用者様の様子を知ることができました。介護過程の授業では、事例を通し、どのような視点で考えるのかを学びました。実際は授業以上に難しく、この利用者様にはどのような計画が良いのだろうか悩みました。

しかし、悩み考えることで、利用者様の持つ良い部分に目を向けられたと思っています。この第3期実習で習得することのできた「利用者様の力や個性を活かす視点」を踏まえ、秋の第4期実習に

努めていきたいです。

最後になりましたが、ご協力して下さった利用者様、ご指導下さった職員の皆様、校長先生をはじめ支えて下さった先生方に御礼申し上げます。

ありがとうございました。

◆日中友好協議会・

中国浙江省の方が来校されました!

6月17日、静岡県日中交流協議会の経済交流促進の一環として、『日本の高齢者福祉制度及び関連産業の発展状況について』というテーマで、中国浙江省の政府部門の方が、本学を視察に来校されました。

日本の介護技術は、世界的に見ても発展しており、今では「KAI IGO」という言葉が世界共通語になるくらいです。中国でも日本以上に、少子高齢化は大きな社会問題になっており、さらに介護技術の発展が遅れている部分もあるそうです。日本の視察で良いところを自国へ取り入れようとのことでした。

施設・設備を色々見学していただき、介護実習の授業風景も見学していただきました。「日本の施設は綺麗ですね。」とお褒めの言葉をいただきました。

本学の学びが世界で活かされると思うとワクワクしますね。



*静岡県日中友好協議会

会長 川勝 平太様 (静岡県知事) より*

過日は、特段の御配慮により、本協議会受け入れの浙江省中長期調査員が貴校を訪問させていただき、また御多忙の中御歓待いただき、厚く御礼申し上げます。

浙江省中長期調査員は、7月2日、所期の目的を達成し、無事、帰国の途につきました。浙江省中長期調査員は、貴校より今回のテーマに基づいて御説明いただき、調査において大変参考になったことを喜んでおりました。

本協議会では、今後とも本県と中国、特に浙江省との経済交流を中心とした友好交流の促進のために努力してまいりますので、一層の御支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。